

苦痛度の検索表

分類	手技／処置	苦痛度			備考
保定	用手保定	B			無麻酔・無鎮静下での数分間の姿勢制御
	マウス・ラット尾静脈採血用保定器の使用	B			
	ウサギ耳翼辺縁静脈採血用保定器の使用	B			
拘束	ラット用ボールマンケージ	C			無麻酔・無鎮静下での数時間にわたる姿勢もしくは生理・生態・習性の制御
	マカク属サル用モンキーチェア	C			
個体識別	色素塗付、毛刈、入墨、耳パンチ、耳標、脚帯、マイクロチップ(IC)など	B			耳パンチと耳介のバイオブシーを峻別
身体検査	体重測定	B			不動化のために麻酔することがある。
	体温測定	B			
	脳波測定	B			
	心電図測定	B			
	超音波画像測定	B			
	放射線画像撮影(X線、MRI、CT、PETなど)	B			
	移植腫瘍サイズ計測	B			
制限	絶食・絶水	B	C	D	持続時間と動物種により異なる。
行動観察	摂餌・摂水量、行動量の測定、レバー押し、発情行動の観察、オープンフィールド試験	B			自発行動の観察
	強制運動、生態・習性の制限、ストレス環境への暴露	C	D		負荷・制限をかけた行動観察。時間制限する。
材料採取	無麻酔で行う採血 (注射器又は表皮薄切による末梢静脈採血など)	B			遺伝子型判別のためのマウス・ラットのテールカット(tail clipping)は3～4週齢で実施する。
	腹水採取	B			
	スワブ採取(鼻腔、口腔、肛門)	B			
	カテーテルによる採尿/導尿(麻酔薬塗付)	B			
	麻酔下の採血(動脈、眼底静脈叢、体腔内血管)	C			
	麻酔下のバイオブシー(テールカット、耳介、皮膚、皮下脂肪、骨髄、腎臓、肝臓、消化管粘膜など)	C			
投与・接種	静脈内、腹腔内、筋肉内、皮下(硬膜外を含む)、皮内、経皮/経粘膜、経口(カテーテルを使用を含む)、混餌、飲水溶解/懸濁、経気道/吸入(気管内挿管を含む)、経鼻/点鼻	B			
	脳(室)内、脊髄内、鞘内、眼球内、足底部、動脈内、体表リンパ節、内臓血管、腸内(以上、麻酔下)	C			無麻酔で行う場合は理由を明記する。
	アジュバント乳化抗原フロイント不完全	C			できるだけ不完全アジュバントを使用し、足底部は避ける。
	フロイント完全	D			
	移植	皮下、静脈内、腹腔内	B		
足底部/フットパッド(麻酔下)		C			
臓器内(麻酔下)		C			
臓器移植(麻酔下)		D			
処置	気管内挿管(局所麻酔下)	B			放射線照射は線量と照射部位により

	内視鏡スコープ挿入(麻酔下)	B	苦痛度が異なる。レスキューで苦痛を下げることができる
	浸透圧ポンプ埋め込み	C	
	バルーンカテーテル挿入	C	
	脳内、筋肉内電極挿入(麻酔下)	C	
	脳室内カニューレ挿入(麻酔下)	C	
	留置針の設置生態、習性を妨げない場合	B	
	生態、習性を妨げる場合	C	
	放射線照射	B C D	
手術	覚醒させず安楽死させる手術の実習	B	すべて麻酔下で実施する。精管結紮、胚移植には開腹手術を伴う。
	テレメトリー埋め込み	C	
	帝王切開	C	
	新生子蘇生	B	
	人工哺育/里子	B	
	頭蓋穿孔術	C	
	精管結紮	C	
	胚移植	C	
疾患/病態モデル作製	食餌性肥満(機能障害を伴わない)	B	最大限の病態発現を前提に苦痛度を選択する。重篤に至る前に安楽死処置する場合は、その旨を明記し適切な苦痛度を選択する。
	高脂血症	C	
	糖尿病	D	
	高血圧症(脳卒中モデルを含む)	D	
	腎不全(ネフローゼを含む)	D	
	心筋梗塞/虚血	D	
	脊髄損傷	D	
	末梢神経損傷/変性	D	
	パーキンソン病	D	
	認知症	C	
	筋ジストロフィー	D	
	自己免疫疾患	D	
薬理・毒性実験	電気刺激	B	
	テールフリック	B	
	ホットプレート	B	
	酢酸ライジング	C	
	単回投与毒性試験	D	
	反復投与毒性試験	D	
	生殖発生毒性試験	C	
	がん原性試験	D	
発がん実験	がん細胞移植	D	最大の病態発現を前提に苦痛度を選択する。重篤に至る前に安楽死処置する場合は、その旨を明記し適切な苦痛度を選択する。
	化学発がん	D	
感染実験	顕性(致死を含む)	D	
	不顕性	C	